

【別紙】連携を進める上での課題と取組内容

医療機関名	課題・取組
国立病院機構石川病院	<p><課題>在宅患者の受入れ余地があるが、在宅医療を提供している医療機関からの患者紹介が少ない。</p> <p><取組>今後、在宅復帰支援及び在宅療養の患者受入に対応するため、在宅後方支援病院の届出を行い、「地域包括ケア病棟」の導入に向けて準備を進めていく。</p>
加賀市医療センター	<p><課題>紹介・逆紹介を推進しているが微増にとどまっている。地域の急性期中核病院であるが、地域の特性として身寄りのない認知症・独居高齢者も多く、地域の受け皿も十分ではないため急性期後の慢性的な患者を多く抱ざるを得ないため本来の機能に特化することが難しい。</p> <p><取組>当日受診でも紹介状を出してもうなど少しでも紹介率が上がるよう取り組みを検討している。地域医療連携の状況・課題の共有のため加賀市の病院・有床診療所と年に数回、地域連携実務者連絡会を開催している。</p>
国民健康保険小松市民病院	<p><課題>南加賀地区では訪問診療医が少ないため、急性期から在宅への退院調整に時間がかかっている。</p>
やわたメディカルセンター	<p>①救急や手術機能は、一箇所に集中させてしまうと、その病院が事情で機能しにくくなった場合に地域医療が困窮するため、南加賀で平時から分担する方向がよい（例：ACSや外傷を輪番とするなど）②脳卒中連携パスは急性期病院と当院との間で電子上での経過報告や紹介として機能しており大変役立っているが、そのままかかりつけ医や介護施設にも電子上で連携がとれると情報交換が円滑に行える。ハード面の装備や情報の利用権限などを整備する必要があり、財源の補助（導入時およびランニングコスト、サーバー更新時など）が不可欠とされます。</p>
小松ソフィア病院	<p>地域に療養病床の受け入れ先が少なく、退院調整が難航することがある。</p>
芳珠記念病院	<p>・主に能美市内で担うべき医療の質と量を関係者と共有したうえで、過不足なく対応できるように役割及び機能を合わせていく予定です。そのため今のところは、変更なしとして回答しています</p>